

米欧亜回覧

第51号

発行

特定非営利活動法人

米欧亜回覧の会

編集 総務部会

七月全体例会は、泉三郎氏の出版記念講演

「岩倉使節団は明治日本に何をもたらしたのか」

七月十二日(土)午後、日本プレスセンターで

七月の全体例会は、十二日(土)一部の会務報告と二部の講演の構成で行なわれる。

二部は歴史部会が担当し、泉三郎氏の新著「誇り高き日本人―国の命運を背負った岩倉使節団の物語」が、五月下旬にPHP研究所から刊行されることもあり、泉氏からお話をうかがうことになった。本著作は、六百頁を超えるノンフィクションの大作であり、泉氏の多年の研究の集大成というべき本である。

会員外の方も歓迎であり、関心のありそうな方があれば是非誘っていただきたい。



「誇り高き日本人」(泉三郎著・PHP研究所)



「現代語訳・米欧回覧実記」(慶應義塾大学出版会)

現代語訳「米欧回覧実記」普及版、いよいよ六月下旬に刊行!

本会の企画による水沢周訳の「現代語訳・米欧回覧実記」の普及版が、慶應義塾大学出版会より、六月下旬いよいよ出版される。

美しい装丁のハンデインな文庫版で、価格も手頃であり、分冊の購入が可能(一冊一六〇〇〜一八〇〇円)なので、多くの人に読まれることが期待される。また、別冊で総索引(項目別、人名別、地名別)も同時に発売されるので(五百円)、研究者や愛読者にとっては極めて好都合といえよう。



4月全体例会(4月20日・国際文化会館)

四月全体例会、盛況!

―総会並びにNHKビデオの上映と解説

四月の全体例会は、二十日(日)国際文化会館の講堂において開催された。

一部では年度初めのため総会が行なわれ、理事長の会務報告と今後の方針に関する発表があり、続いて役員選任、活動報告、会計報告などがなされ、承認された。

二部では、NHK・BS「世界から見たニッポン」(明治編)が上映され、お招きした制作責任者の辻泰明氏から製作意図や解説を聞き、また質疑応答では担当プロデューサーならではの裏話などもうかがい、有意義な時を過ごした。

なお、続いて華珍楼で懇親会が開かれ、酒食の間に談論風発し、懇親を深めた。

(詳細は二・三頁)

本年は、明治四十年に当たると。その間、日本は一貫してパワフルな西洋文明と格闘してきたといえる。そして今、日本はその近代化の果てに大きな岐路に立っている。われわれは今こそ、この百四十年を振り返り、総括する必要があると思う。

最高の徳育及び情育―平成日本が失ったもの

泉三郎

社会の日常生活において、厳に強行せられたり」と述べている。伊藤はこれを一九〇三年に書いており、一八九九年に出版された新渡戸の「武士道」を下敷きにしてのこととわかる。そしてこう続ける。

「即ち優美なる感情と美術心とに富み、道徳及び哲学の高尚なる理想を抱き、且つ忠勇義侠の精神を有するを以て士人となし、いやしくも士人たるものは一人にして悉く之を兼ねざるべからずとなし、吾人もまたこれらの学問、技芸を調和、包有するを以て完全なる人物となし、専ら之に重きを置きたり」

私にはたまたま最近、大隈重信が編纂した「開国五十年史」全二巻を見る機会があった。この著作には開国以来の日本の歩みを総括する意図があり、大隈はじめ当時の錚々たるメンバーが執筆している。久米邦武もその一人であり、伊藤博文もそこに「憲法制定の由来」なる一文を寄せている。

その中で伊藤はわが国が中国や印度の哲学や歴史からそのエッセンスを学びしかも日本化して「最高の徳育及び情育」を享けてきたといふ、「武士道」なる概括的名称の下に、「因習の久しき幾百年を経て益々醇化し、遂に吾人に道徳の偉大なる標準を供し、教育ある

伊藤がここで日本人の保守すべき規範として「美術心と道徳心と義侠心」を挙げていることは注目に値する。それは戦後日本とりわけ平成の日本人が失ったものとズバリ付合しているからだ。われわれはこのことにあらためて思いをいたすべきではなからうか。

第47回
全体例会

総会に続き、

NHK・BS特集「世界から見たニッポン」を見る
—制作担当者・辻泰明氏を招いて

平成二十年度第一回の例会は、四月二十日(日)午後一時より国際文化会館講堂において開催された。

【一部・総会】

年度第一回目の例会は総会をかねることとなっているため、開会の先立ち出席者の確認が行われた。正会員数は百七十名、出席者は三十八名、委任状四十七名、計八十五名で総会は有効に成立した。

まず議長に泉理事長を選出、議事に入った。議題および審議の次第は以下のとおりである。

- ① 事業概況の報告
泉理事長より。
- ② 役員選任の件
泉理事長より役員選任につ



総会の泉理事長と山田事務局長

いて、水澤周氏および半澤健市氏の理事退任、西井正臣氏、近藤義彦氏、石垣禎信氏の三氏の理事新任、および現理事の泉、山田、藤原、塚本三名および岩崎監事の留任について提案され、満場一致で承認された。

③ 平成十九年度・活動報告(二・三頁掲載)および平成二十年度活動計画(五頁掲載)について、各部会幹事より報告。

④ 平成十九年度・会計報告(収支計算書、貸借対照表は四頁掲載)について、山田事務局長より報告。

なお、③および④については一括審議のうえ承認された。(文責) 山田哲司

【二部・ビデオ上映と解説】

四月の全体例会では、NHK・BS特集で放映されたビデオ「世界から見たニッポン」(明治編)を、制作担当のプロデューサー辻泰明氏を招いて見ることができた。

世界の国々の人びとは、日本の国際社会への登場をどのように迎え、期待し、また怖れたか。横浜の英字新聞の編集者ブランクリーやお雇い外

(平成19年4月～平成20年3月)

	青年部会	総務部会・その他	関西支部	グローバル・ジャパン研究会
2007年				
4月		ニュース46号(4/20)	第39回例会(4/21) 「岩倉具視一国家と家族」 岩倉具忠氏	
5月				「環境問題と日本人」 高坂節三氏 (5/10)
6月	「グローバル化の拡大と日本の将来」 塚本弘氏 (6/7)	ニュース47号(6/30) 「バーチャル・オフィス」開設		「科学技術・教育、そして日本文化」 石田寛人氏 (6/12)
7月			第40回例会(7/14)	
8月	「戦争責任・核問題・中東問題」 藤原宣夫氏 (8/4)			
9月				
10月	「年金問題について」 永富邦雄氏 (10/6)		第41回例会(10/20) 「電信で読み解く南北戦争」 松田裕之氏	
11月		ニュース48号(11/10)		
12月	「岩倉使節団の旅」 泉三郎氏 (12/1)	ニュース49号(12/25)		「西欧的近代化を超える思想」 (12/4) 永池栄吉氏、塚田晴可氏 安原和雄氏
2008年				
1月			第42回例会(1/19) 「戦前の「国史」と戦後の「日本史」」 榊居氏	
2月				
3月		ニュース50号(3/1) 特別記念号		



ビデオを解説する辻泰明氏

Q 二人の外人の視点が中心になつてはいるが、より多面的に扱うことは出来なかつたか？

A 限られた時間での「小さな番組」ではどこかに焦点を絞らざるをえない。

Q 中国の呼称が「清」や「中華人民共和国」であったりしますが、何か統一基準があるのですか？

A 時代の流れや背景で使い分けており、最終的にはプロデューサーの判断によります。

Q この種の番組は企画段階から制作までのかなりの時間と予算がかかるものですか？

A 「情報公開」ということもあり、直接経費というところが、万円くらい、期間は実際に仕事を始めてからだと大雑把にいつて二ヶ月くらいです。ただ、この番組の場合以前スペシャルでつくつた「明治」の資料蓄積がありましたので、その程度でできたという事はあります。

Q 西洋諸国は、日清・日露に勝つて初めて日本を評価し、その結果条約改正にも成功しましたが、その後の日本についてどう思いますか？

A 一度成功しますと、その成功体験に固執してしまつてそれを変えることが非常に難しいのだと思います。



近藤理事の司会で質疑応答(熱心な質問が時間を超過するまで続いた)

(文責) 泉三郎
(写真) 橋本吉信

平成19年度 活動報告

	全体例会	実記・英訳読む会	現未来部会	歴史部会
2007年				
4月	第43回例会(4/21) NPO総会 ブンブン・ミーティング	第106回実記読む会(4/12) ベルリン市の記 ★第48回英訳読む会(4/19)		
5月		第107回実記読む会(5/10) ロシア国総論 ★第49回英訳読む会(5/17)		「明治のエンジニア教育」 田邊康雄氏(5/21)
6月		第108回実記読む会(6/14) サンクトペテルブルグ市・上 ★第50回英訳読む会(6/21)		
7月	第44回例会(7/14) 「いま、昭和史の失敗から 何を学ぶか」 保阪正康氏	第109回実記読む会(7/12) 露国鉄道 ★第51回英訳読む会(7/26)		
8月				「ある小国のサクセスストーリー・ ルクセンブルグ大公国の場合」 吉野忠彦氏(8/3)
9月		第110回実記読む会(9/13) サンクトペテルブルグ市・中 ★第52回英訳読む会(9/20)		
10月		第111回実記読む会(10/4) サンクトペテルブルグ市・下 ★第53回英訳読む会(10/18)		
11月	第45回例会(11/18) 「『久米邦武』評伝を書き上げて」 高田誠二氏	第112回実記読む会(11/8) リオンおよびマルセイユ ★第54回英訳読む会(11/15)	「今後の日本のあり方」 憲法改正問題全員討論 (11/28)	「戦後史最大の謎」 堤堯氏(11/5)
12月		第113回実記読む会(12/13) スウェーデン国の記・上 ★第55回英訳読む会(12/20)		
2008年				
1月	第46回例会(1/25) 「新年懇親例会」 テーマ「ロシア」	第114回実記読む会(1/10) 高田誠二『久米邦武』をめぐって 懇談会 ★第56回英訳読む会(1/24)		
2月		第115回実記読む会(2/14) 「第69巻 瑞典国ノ記下」 ★第57回英訳読む会(2/21)		
3月		第116回実記読む会(3/13) 「久米邦武」をめぐって ★第58回英訳読む会(3/27)		

平成19年度 特定非営利活動にかかる事業 会計収支計算書

平成19年4月1日から
平成20年3月31日まで特定非営利活動法人
米欧亜回覧の会

科 目	金 額	
I 収入の部		
1 会費・入会金収入		
入会金収入	20,000	
会費収入	970,432	990,432
2 事業収入		
講演会等事業収入 (部会活動収入を含む)	1,129,000	1,129,000
3 特別賛助金	130,000	130,000
4 その他収入		
書籍、資料等販売手数料	54,400	
利息収入	1,319	55,719
当期収入合計 (A)		2,305,151
前期繰越収支差額		748,064
収 入 合 計 (B)		3,053,215
II 支出の部		
1 事業費		
(1) 講演会等事業費	1,062,760	
(2) 会報発行事業費 (印刷費)	417,860 (262,080)	
(郵送費)	(155,780)	1,480,620
2 管理費		
電話・通信費	90,950	
会議費	113,342	
事務費	528,721	
人件費	136,260	869,273
当期支出合計 (C)		2,349,893
当期収支差額 (A) - (C)		△44,742
次期繰越収支差額 (B) - (C)		703,322

(単位:円)

平成19年度 特定非営利活動にかかる事業 会計貸借対照表

平成20年3月31日現在

特定非営利活動法人
米欧亜回覧の会

科 目	金 額	
I 資産の部		
1 流動資産		
現 金 ・ 預 金	2,677,536	
流 動 資 産 合 計		2,677,536
2 固定資産		
固 定 資 産 合 計		
資産合計		2,677,536
II 負債の部		
1 流動負債	1,974,214	
流 動 負 債 合 計		1,974,214
2 固定負債		
固 定 負 債 合 計		
負債合計		1,974,214
III 正味財産の部		
前期繰越正味財産		748,064
当期正味財産増減額		△44,742
正味財産合計		703,322
負債及び正味財産合計		703,322

(単位:円)

★報告★
「グローバル・ジャパン研究会」、セカンドクルールがスタート!

グローバル・ジャパン研究会は、一貫したテーマ「世界の中の日本の役割」に基づき、四月より密度の高い研究会を意図として始まった。

第一回は四月十八日、国際文化会館セミナールームにて、吹田尚一氏(元三菱総研常務、敬愛大学教授、会員)が報告し、内容は「日本発の世界平和構想を「グローバル・ジャパン」のための具体的提案」であった。近代の病は人間のアトム化、自然の崩壊、国家権力の増大にあり、その最大の結果が戦争であることを分析した上で、世界平和のために平和総合センターの創設の必要性を論じた。その中で日本は、真の独立への道を探求すべきであり、具体的には永世中立への道を提案した。

第二回は五月十七日、西井易徳氏(埼玉医科大学客員教授、薬学博士、会員)の報告で、そこでは「集団的治療から個の治療へ」という提言があった。これまでの医療は普遍性、合理性に囚われ西洋医学が中心であったが、医学の本意は「未病の治療」にあり、東洋医学との融合を図ったバランスのとれた医学を目指すべきだと提案した。この研究会では、毎回の報告内容を記録に残すことを前提とし、外部に発信できるレベルのものを目指している。

DVD「岩倉使節団の米欧回覧」を見る・聞く・語る会が始まる
新しい会員や会員外の関心のある人を対象に、入門編として新設されたDVD「岩倉

平成20年度 特定非営利活動にかかる事業 会計収支予算書

平成20年4月1日から平成21年3月31日まで

特定非営利活動法人 米欧亜回覧の会

(単位：円)

科 目	金 額	
I 収入の部		
1 会費・入会金収入		
入会金収入	100,000	
会費収入	1,000,000	1,100,000
2 事業収入		
講演会等事業収入	1,500,000	
部会活動事業収入	600,000	2,100,000
3 補助金等収入		
地方公共団体補助金収入		
民間助成金収入		
4 寄付金収入(特別賛助金)	1,000,000	1,000,000
5 基本金運用収入		
基本金利息収入		
当期収入合計(A)		4,200,000
前期繰越収支差額		703,322
収入合計(B)		4,903,322
II 支出の部		
1 事業費		
講演会等事業費	1,200,000	
部会活動費	600,000	1,800,000
2 会報事業費		
印刷費	250,000	
郵送費	150,000	400,000
3 事務費		
電話通信費	400,000	
会議費	150,000	
事務費	600,000	
人件費	750,000	1,900,000
当期支出合計(C)		4,100,000
当期収支差額(A) - (C)		100,000
次期繰越収支差額(B) - (C)		803,322

指すべきだと提案した。この研究会では、毎回の報告内容を記録に残すことを前提とし、外部に発信できるレベルのものを目指している。

使節の米欧回覧」を見る・聞く・語る会」は、好調にスタートした。
第一回は四月十二日にJICA「地球ひろば」で行われ、二十一名が参加、そのうち十五名は新しい顔ぶれであった。泉代表の解説でDVDの第一章「使節団の出發」を上映し、全員が自己紹介と感想を述べあった。
第二回は五月十一日に聖心

女子大学で、四十一名が集いそのうち二十名が学生の参加であった。DVDの第二章「新しい国アメリカ、大陸横断の旅」と第三章「ワシントン滞在と東部回覧」を中心に第一章から上映し、質疑応答で終了した。
第三回は六月十四日(土)英国篇を、第四回は七月五日(土)佛独篇を上映する予定である。(文責)小松優香

平成20年度 事業計画書

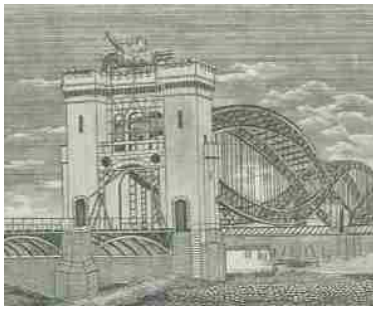
平成20年4月1日から平成21年3月31日まで

特定非営利活動法人 米欧亜回覧の会

事業実施の方針 平成20年度は、事業の中心を講演会、部会活動、会報(ニュース)発行の3本柱とする。

事業名	事業内容	実施予定日時	実施予定場所	従事者の予定人数	従事者の範囲及び予定人数	支出見込み額(千円)
講演会	講演会年3回 交流・交歓会年1回	4月、7月、10月、1月	日本プレスセンター他	各回8名	一般市民 講演会(各回)80名 交流会90名	600 600
部会活動	研究及び啓発活動	部会により、毎月又は年4回	国際文化会館他	各回3名	一般市民 各回25名	600
会報(ニュース)発行	会の活動に関する会報の発行により研究・啓発を行う	季刊(年4回)		3名	一般市民 各号800部	400
国際シンポジウム関連事業	18年度開催した国際シンポジウムに関連する成果物の整理出版を実施する	4月以降、10月頃まで		5名	一般市民 延300名	支出は前年度計上済み

注) 部会とは、「実記」を読む会、英文「実記」を読む会、歴史部会、現未来部会、国際部会、青年部会、総務部会の7部会である。



ハンブルグの珍しい鉄橋
(現代語訳『実記』)

実記を読む会報告

連絡 桑名 正行

Tel&Fax 03-3642-9570

mkuwana@nifty.com



■第百十六回

三月十三日
開催。

四十九号掲載の久米邦武評伝の書評執筆者である中村浩子さんが以下の資料に沿って報告。
「二」大久保利兼歴史著作集二の中の岩倉使節団と『実記』関係部分。多く示唆を与えられ、当日の話もこれが中心。

「一」女王謁見二日後のタイムスの日本紹介の社説。その後、衰えた幕府の使節団と激流を乗り切った新政府の使節団の勢いの対比がある。それから約五十年後にウエルズが描いた日本観を併せ読むと感慨を覚える。
「三」岩倉使節団や『実記』を誘導し骨子を立案した「ブリーフ・スケッチ」のフルベッキの写真。

「四」久米邦武周辺の子息桂一郎画伯の著作『方眼美術論』から、黒田清輝の追憶の部分。恵まれた維新第二世代の、『実記』後日談的な面も少しある。

■第百十七回

四月十日開催、金本君子さんの報告原稿の要約である。

第六十六巻、北日耳曼前記を読む。前半かなりな歴史が書かれてあり、理解不能なところもあつたので一行が北日耳曼地方をドイツ統一直後に通過したことを考え、視点を明確にして年表を作成した。

一行は、もとは一國をなしていたが普魯士國に合併されたボンメラン州に入り、梅格稜堡を通り、国内にたつた三つ残つた自由都市、早堡府に達する。地図で見ればどの州も國も猫の額のようなところ。早堡府は、いまでも「自由都市ハンブルグ」という名称で、ハンザ同盟が十五世紀に衰えた後も隆盛を極めた。一日その繁栄ぶりを見学し、久米は端的にその自治のあり方を記している。「府中ニ政府ヲ設ケ共和ヲ以ツテ独立ノ政治ヲナシ聯邦ニ加ハレリ」。岩倉一行がこの時期日本人としてここを通過した意味は大きいと思う。

■第百十八回

五月八日、出席者十四名。七十巻、七十一巻、北日耳

曼、後記上・下二巻、桑名正行氏の報告文の要約である。五月一日から五日朝までに、二巻があてられていた。

一行はハンザの美都リュールベックを観る暇がなかった。久米は心残りだったか、「概シテ格別ノ繁華壯麗ノ都ニハアラザルベシ」と独り合点の筆を走らせている。昨今は「世界文化遺産」ツアーの人氣定番『北ドイツ』の目玉がこのリュールベックである。

翌二日、一行はハンブルク郊外の住宅街の景観美にふれ、「此府ノ周圍ニハ、：大名家ノ私宅ヲ列ネ、：清麗ナル住居ヲナス」と、ドイツ人の「住」にこだわる文化の典型をそこに観た。三日、早朝列車で南行し、金融、商業の町フランクフルト・アム・マインへ。翌四日、馬車で市中見物、「大植物園」「動物園」のほか、特に神聖ローマ帝國の聖堂「旧會堂」(レーマー)を訪問。ここで、久米は一八〇六年ナポレオン一世が神聖ローマ帝國に終止符を打つた経緯を記述している。プロコトール抜き気楽な日程のためか、西郊にヴィスバーデンなる名湯あり、「此日モ一行ノ内、此温泉ニ遊ベリ」と一息入れた。

五日朝、十時半ミュンヘン向けホテル出発、直前、近くの「ナウマン社」で「日本通行ノ

貨幣ヲ製造スル場」をつぶさに見学した。グーテンベルクの土地柄か、紙幣製造のメッカ、はるか後年「贋金づくり」の裏技に発展しようとは、久米も知らなかったに違いない。

■第五十八回



y-iwasaki@isr.or.jp

英訳実記を読む会報告

連絡 岩崎洋三

Tel & Fax 03-3488-0532

三月二十七日、六名出席。
(Vol.2 BRITAIN Ch.38 A Record of the City of Birmingham)
斉藤さんが、針製造場、鋼筆製造場見学部分を、三原さんが金銀器を製造するエルキントン社訪問部分を報告した。三原さんはインターネットで見つけた「エルキントン社のシルバープレート技術と明治新政府の岩倉使節団」という写真入りのリポートによって、同社が一八四〇年に商業生産を開始した電気メッキ技術が、一七四二年以来支配的だった熱処理によるシェフィールドプレート技術の駆逐したことや、イギリスの技術者達が日本の進ん

だ工芸技術を良く研究しており、逆に質問攻めにあつたことなどを紹介した。また、英訳が久米の固有名詞や方角の誤記を現地調査によって良く修正してくれている一方で、相変わらず英訳の誤りも少なくないことを実例をあげて指摘した。

■第五十九回

四月十七日、出席者八名。
(Vol.2 BRITAIN Ch.39 A Record of the County of Cheshire)

久保田さんが長いパートを臨場感たつぷりに報告した。使節団一行を招待したJohn Tollenacheは、貴族ではないものの、地所二万八千エーカー(十一万六千平方キロ、三千五百万坪)に、一八四二年から十年かけて造営したPeckorton Castleを保有する、とてつもない豪族だった。また、付近は良質の粘土kaolinを産することから製磁が盛んだが、一行が見学した有名なMintonは、ビクトリア女王が世界一と絶賛したとのこと。しかし、東洋製磁の評価はより高く、とりわけ日本製は一目置かれていたとのこと。一行も気分が良かったのでは。なお、久米が高額の意味で「値千金」と言ったのを、「a thousand King's £ 二〇〇」と訳した理由が判らずじまいだった。



松尾文夫氏 (歴史部会)

■第六十回
五月十五日、出席者七名。
(Vol.2 BRITAIN Ch.39 A Record of the County of Cheshire)
久保田さんが前回積み残した製陶場見学部分を報告。次いで岩崎さんが岩塩鉱山見学部分を、最後に、小林さんがトルマセ邸訪問部分を報告した。小林さんは、豪邸の揚水ポンプについて図入り英文資料を使って懇切に説明。しかし、シリンドーやピストンを使わず、水流によって圧力差を生み出して高いところに水を押し上げ「hydraulic ram pump」のメカを理解するのは骨が折れた。

これで第二巻英国編もいよいよ四十章を残すだけになった。しかし、ここまで五年五ヶ月六十回も掛かっており、一部メンバーから「こんなスローペースでは全部読み終える自信がない」とクレームがついた。興味深い事が多すぎるのが原因だが、「残り時間が少ないのも」事実。七

月以降開催場所が国際文化会館セミナールームに変わる機会に、進め方を再検討することになった。
(文責) 岩崎洋二



歴史部会報告

連絡 小野 博正

mi040031-9697@tbat-com.ne.jp

■「銃を持つ民主主義」・日米関係と大統領選挙

四月一日、国際文化会館で開催。アメリカ大統領選挙たけなわの中、お招きしたアメリカ専門ジャーナリストの松尾文夫氏の講演によって、今の日米関係やアメリカ大統領選をどう見るべきかの、様々な貴重な視点を与えられた。

松尾氏は、共同通信社に入社後、長年のアメリカとベトナム・インドシナなどの報道現場の経験をもとに日米関係を考察されて、二〇〇二年、その著書『銃を持つ民主主義・「アメリカという国」の成り立ち』にて、第五十二回日本エッセイスト・クラブ賞を受賞され、昨年、アメリカで『Democracy with a Gun - America and Policy of Force』として英訳出版されて話題になっている一流の国際ジャーナリストである。

松尾氏は、政治、経済、文

化、軍事、スポーツとあらゆる面であつてないほどの深い関係にありながら、日本と米国の間に存在する意識のずれの違いを指摘して、「ほんとうに日本はアメリカの本質を理解できているのか」と疑問を呈する。

アメリカの民主主義とは、銃を持つ自由に始まる民主主義であるとし、その原点は、二百七十年前のアメリカ合衆国憲法の修正第二条の「規律ある民兵は、自由な国家の安定にとつて必要であるから、人民が武器を保有し、又携帯する権利はこれを侵してはならない」にあると見る。

さらに、日本が先の大戦のトラウマを卒業するために、日本版「ドレスデンの和解」を提唱する。日本と同様に、夜間無差別焼夷弾爆撃を受けたドイツのドレスデンでは、一九九五年の五十周年に、米英両国の要人を前に「ヘルツォーク・ドイツ大統領は、「死者の相殺はできない」と米英側に暗に非戦闘員爆撃の責任を認めることを迫り、そのうえでかつての敵も味方も、「死者を弔うという一点で一致することによって将来の共生を図ろう」との剛直な論理で和解を宣言した。米英世論もこれを受け入れた。日本は明治以来、アメリカを捉えきれない。アメリカ

力の正確な把握なくして、アメリカへの過剰な傾倒は心配だと、知米派の松尾氏は指摘する。米メジャーへの現在の日本マスコミのフィーバーぶりにも、一九三四年ベールブルースの来日で日本のプロ野球が誕生するなどのフィーバーを経験しながら、七年後には真珠湾攻撃をしてしまった故事を指摘して、「知っていただくように知らない」アメリカとの『すれ違い』への警鐘を鳴らす。野球を受け入れ愛していた先進国は日本以外には無い。この簡単な事実を噛み締めてみるべきだと松尾氏は説く。

■月例読書会復活・近現代史シリーズを読む

歴史を読みながら、考えながら、自由に現在と未来も語ろうという趣旨で、歴史部会発足当時の月例読書会を復活することになった。方針は、岩波新書の「シリーズ日本近現代史」を利用して、毎回会員の中から、一人リポーターを立てて、読書感想と所感を述べて頂き、それをベースに、自由な討論を行う形式である。会費は各回千円。

初回は「幕末・維新」(井上勝生著)で、幹事役の小野が担当し、五月十九日に十七名が参加して国際文化会館で行なわれた。

(文責) 小野博正



関西支部報告

連絡 難波 康熙

namba@jttk.zaq.ne.jp

■第四十三回
四月十二日、出席は十二名。
実記第一巻の三百三十頁からはじめ、キリスト教、儒教、仏教の「比較宗教論」を議論。特に儒教は修身の学であり

宗教ではないと久米は言う。また、キリスト教の聖書には死者の復活など荒唐無稽な記述もあるが、平易な内容でありその内容の認識が庶民まで徹底し、解釈が共通した客観性に基づいている。この記述の背景として、使節団は幕末期に起きた九州のキリスト教信徒捕縛の問題への諸外国の非難、即ち国際化した宗教問題に頭を悩ましていた。

新聞、ジャーナリズムの重要性をアメリカの実情を観察して指摘し、政府に入らず独立した立場にあり政府をも批判する在野の人材が豊富であることが文明国の尺度であると主張している。(三百四十八頁) 明治の基盤をつくった社会大衆運動であるその後の自由民権運動の興隆も実記から若干なりとも影響を受けたのであろうか。

(文責) 難波康熙

特定非営利活動法人
「米欧亜回覧の会」ご案内

- 趣旨** この会は「岩倉使節団」に興味をもち、その記録である「米欧回覧実記」に関心を抱く人々の集まりです。この大いなる旅と「実記」はまさに「温故知新」の宝庫と言えましょう。この素材を媒体にして歴史をふりかえり現代の直面する諸問題についても自由に語りあおうという会です。
- 会員** 上の趣旨に賛同する人なら誰でも入会できます。
- 例会** 年に4回くらい全体例会をもちます。
- 部会** テーマ別に読む会、歴史、現未来、総務部会等があり、映像サロン・勉強会・旅行会・研究会・シンポジウムなどを行っています。
- 機関紙** 年に4回程度機関紙を発行し活動報告や会員の意見発表、情報交換の媒体とします。
- 役員** 理事長(泉三郎)他理事および監事で構成、会員の中から幹事十数名を選び、運営を担当します。
- 会費** 年会費5,000円とし、主として通信費及び機関紙代に充当します。例会・部会・講演会などについては、その都度の会費とします。なお、遠隔地居住者、学生、仮入会希望者には準会員(年会費3,000円)の特典もあります。

事務局 「米欧亜回覧の会」
〒112-0006 東京都文京区小日向 2-26-3
E-mail:info@iwakura-mission.gr.jp
TEL:080-6612-1101 FAX:043-238-6690

入会申込
入会申込書は事務局にあります。新規入会に際しては入会金5,000円を頂きます。
なお年会費などのお支払は郵便振込が便利です。
00180-2-580729 特定非営利活動法人米欧亜回覧の会

ホームページ

メッセージ・活動と内容・岩倉使節団・米欧回覧実記・会員のページ等
書籍・DVD案内も掲載

<http://www.iwakura-mission.jp>



<催し案内>

2008年6月～7月の予定です

☆7月全体例会

日時：7月12日(土)
一部 会務報告 13:30～14:30
二部 講演 14:45～17:00
講師：泉三郎氏
場所：国際文化会館講堂(会費2,000円)

☆実記を読む会

日時：6月12日(木) 18:30～21:00
7月10日(木) 18:00～21:00
場所：国際文化会館(会費1,000円)

☆英訳実記を読む会

日時：6月19日(木) 18:30～21:00
7月17日(木) 18:30～21:00
場所：統計研究会、国際文化会館(会費1,000円)

☆歴史部会／近現代シリーズを読む会・第2回

日時：6月30日(火) 18:00～21:00
テーマ：『民権と憲法』(報告者：大平忠氏)
場所：国際文化会館(会費1,000円)

☆現未来部会

日時：6月23日(月) 18:30～21:00
テーマ：安全保障(永島脩一郎氏)
場所：国際文化会館

☆グローバル・ジャパン研究会・第3回、第4回

日時：6月21日(土) 18:30～21:00
③貪欲収奪文明から最適循環文明へ
一直観的提言(泉三郎氏)
7月14日(月) 18:30～21:00
④憲法9条を世界の宝に(安原和雄氏)
場所：国際文化会館(会費3,000円)

☆DVDを見て、聞いて、語る会・第3回

日時：6月14日(土) 13:30～16:30
場所：JICA地球ひろば(03-3400-7717)
会費：1,000円(学生無料)

☆関西支部例会

日時：7月12日(土)(場所：大阪弥生会館)

編集後記

◇DVDを見て、聞いて、語る会には、会員外の方が多数参加。また、既に書店で平積みされている「誇り高き日本人」(泉三郎著)、当会企画の「現代語訳『実記』普及版」も間もなく出版と、難解と思われがちな『実記』や当会への、関心が広がり、高まる期待が膨らみます。

◇偶然手にしたNHKラジオ講座テキスト五月号の巻頭グラビアは「友好百五十年の旅(二)明治維新後の訪仏団岩倉使節団」でした。このように、一般の人々が使節団を知る契機は結構あります。ただし、簡単な解説文の中に、岩倉具視は「旅行中も頑なに鬻を切らなかつた」というエピソードがあります。確か、シカゴあたりで早々に切っているはず…。いつまで鬻が岩倉の頭に乗っていたかは大きな問題ではありませんが、何かの典故の「事実」が次々と広がってしまう歴史記述の怖さも感じます。

◇泉代表の多年の研究の集大成である「誇り高き日本人」や原典の誤りまで解説してある「現代語訳『実記』」の価値は読みやすさだけではなくありません。歴史の専門家でない多くの人々に自信をもって推奨する理由は、「良書」であるからです。(N)